# 下水道展'21大阪へバトンをつなぐ
# 開催地都市が語る下水道展の意義

## 東京都

**■魅せる下水道**

下水道展は、全国の下水道関連企業・団体の技術開発に基づき、下水道に関する幅広い分野の最新技術・機器等を展示、紹介するとともに、一般の方々に下水道について理解と関心を持っていただくことを目的に毎年開催している国内最大級の展示会である。

東京都下水道局では、「一般の方々に下水道について理解と関心を持っていただくこと」を念頭に、普及啓発をこれまで以上に進め、主に一般住民、地方公共団体職員等に向けて東京下水道のプレゼンスを高めることを出展の目的とし、下水道展においてPRを行ってきた。次に、昨年出展した内容を例に、そのPRと効果について紹介する。テーマを「魅せる下水道」と題した「下水道展'19横浜」では、下水道の仕組み、浸水対策、エネルギー活用、震災対策など東京下水道の取組みをより分かりやすく発信することを目的にブースを展示した。

**■VRを活用**

今回の見どころは、新しいメディアを活用したVRドームとVRゴーグルである。まず、VRドームは、360度映像を投影できるため、空間体験に適した内径3・5㍍の浸水対策の下水道管工事現場の様子を上映し、ドームの外側には汚水処理工程の説明や水循環を表す装飾を施すことで、待ち時間も下水道事業を楽しく学んでもらえるように構想した。この映像は4日間で562回上映し、延べ2283人の来場者に鑑賞していただいた。また、VRゴーグルは、映像を立体的に見ることができ、来場者には、VRドームと同様に、工事現場、雨水調整池や貯留管の映像をVR体験していただいた。これらの新しいメディアを活用したブースは、絶えず人が集まり好評であった。VRは、映像を立体的に「魅せる」ことができ大きな集客力を持つことから、下水道事業のPRとしては効果的で活用しやすいツールである。

**■社会の流行から切り込む**

もちろん、局の事業やお客さまに普段の生活で気を付けてほしいことをお伝えすることも下水道展では大切である。マンホール浮上抑制模型や液状化現象対策模型で地震対策について説明するほか、雨まますの役割を伝える「雨まますくん」や豪雨時における半地下建物の浸水被害を再現した「チカちゃんとマモルくん」を用いて、浸水への備えの必要性を説明した。体験型のコーナーでは、スーパーボールを敷き詰めた道で浸水時の疑似歩行体験や、ペットボトルや透明アクリルなどを組み立てて下水道管の仕組みを学ぶワークショップを体験していただくことで、家族連れの子どもにも興味が湧くように心掛けた。下水道展は夏休み中の開催ということもあり、小中学生も多く訪れるため、下水道教育にも資するものである。また、カラーマンホールのコーナーは、アンケートにおいて最も多く「良かった」との評価をいただいた。大きなコーナーではないが、近年マンホールカードはさまざまな自治体が発行しており、このカードを集めている方も多くいらっしゃることが大きな理由だと推測される。集客およびPRする上では、社会の流行から切り込んでいくことも一つ重要な要素となる。

**■「面白そう」を大事に**

「下水道展'19横浜」の出展では、VRや模型など、来場された方々の興味を引くツールを数多く活用した結果、来場者アンケートでは、「とても面白かった」と「面白かった」が合わせて94・8%という好評価をいただき、多くの来場者に理解と関心を持っていただけたと感じている。下水道展での体験は、家族や友人との会話やSNSへの投稿など、広く拡散される。下水道事業をさらに知りたい、面白そうだ、と思ってもらえるよう、開催都市がさまざまな角度からPRすることは、下水道展において非常に重要な意味を持つ。

好評を得たＶＲゴーグル

## 北九州市

**■下水道展を活用したPR**

北九州市では、平成30年に下水道事業に着手して節目の100周年を迎えることを記念して、市民参加型のイベントを中心に「北九州市下水道100周年記念事業（平成29～30）」を実施しました。この記念事業の柱として、平成30年7月24～27日までの4日間、301の企業・団体の出展の下、「下水道展'18北九州」を開催しました。

本市のみならず「九州」でも20年ぶりの開催となったため、自治体展示コーナーであるパブリックゾーンでは、下水道展での初の試みとして、本市を含む九州管内の16自治体による「オール九州・下水道コーナー」を設置し、共同で展示を行いました。

このコーナーでは、大型モニターや模型などを活用し、下水道の仕組みや浸水対策などの取組みを紹介しました。

その中でも、特に子どもたちに下水道を楽しく学んでもらえるよう、「マンホール蓋の缶バッジづくり」をはじめとした、工作・実験コーナーを設置しました。

さらに、環境に対する意識を高めるきっかけとなるよう、本市の中心部を流れる紫川の水質改善に至った歴史など、下水道が果たしてきた役割なども紹介しました。

**■PR隊を結成**

「下水道展'18北九州」をはじめとする記念事業の実施に当たってはPRが大変重要と考え、職種に関係なく意欲のある職員を局内から広く募集し「PR隊」を結成しました。効果的に記念事業の内容を告知するため、メンバー間のミーティングを毎週行うとともに、局内全体での企画会議を月に2回程度、計12回開催しました。

具体的な広報としては、「大人から子どもまで幅広い広報展開が必要」との考えから、SNSおよび駅前や学校へのチラシ配布によるイベント告知、テレビやラジオ、新聞等でのPR、こども下水道新聞の発行などに取り組みました。

これら記念事業の広報を通じて、参加した職員からは、「職種を越えた人脈形成につながった」「下水道事業全体の知識向上を図ることができた」などの意見があり、これからの下水道技術を支える職員の人材育成にも貢献できたものと考えています。

なお、この取組みが評価され、令和元年度国土交通大臣賞（循環のみち下水道賞）の「広報・教育部門」をいただきました。

併催行事である下水道研究発表会では、国、地方公共団体、民間企業等の実務経験者による研究成果や実務事例の発表があり、実務に直結するものや、新しい着想にもつながるものもあるなど大変有意義なものとなりました。また、地元開催を良い機会ととらえ、本市からも多数の職員が発表し、その中から、小学校への訪問授業に関する発表がポスターセッションの最優秀賞に選ばれたことは、多くの職員の自信につながりました。

**■大切さを伝える**

「下水道展'18北九州」では、最新の技術、機器等の展示を行う企業ゾーンを設けましたが、これほど大規模に企業担当者と来場者が密接に関わる機会はほかにはなく、貴重な情報収集やネットワーク形成の場となり、非常に有意義であったと考えています。また、これまで本市の下水道の発展に力を注いできた地元企業の方々にも下水道展へ多数参加、ご協力をいただき、地域で一体となって盛り上げることができたと考えています。

また、「下水道展'18北九州」では、学生や子どもたちを含む一般の方々が多く来場しました。特に、「オール九州・下水道コーナー」には、子どもたちを中心に約7000人が来場し、多くの小学生から、「下水道の仕組みや役割を分かり易く学ぶことができた」「工作や実験など面白い体験ができ、良い思い出となった」といった、喜びや感謝の声をいただくなど、下水道の未来を担う子どもたちに普段目に触れる機会の少ない下水道の大切さを伝えることができたと考えています。

**■大阪開催への期待**

人口減少に伴う料金収入の減少など下水道事業を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、さらには局地的豪雨や大規模地震への備え、施設の老朽化対策などの課題に対応しながら下水道事業を着実に推進するためには、市民の理解は欠かせません。

下水道展は、下水道の役割や重要性を市民に知っていただく絶好の機会です。コロナ禍における新たな下水道広報の創造など、今後とも先進的役割を果たされることを期待しています。

「オール九州・下水道コーナー」には7000人が来場

## 名古屋市

**■嬉しそうな姿、今も**

2016年に名古屋市で下水道展を開催した時、筆者が主に担当した中部地方下水道協会ブースでは、「トイレ」や「お風呂」をモチーフにしたゲームでまちの環境を守るための知識や下水道の役割を学んでもらうとともに、中部9県の選りすぐりのデザインマンホールをかたどったパネルを展示し、その地域の事業や特色を紹介しました。来場した子どもたちが、恐竜やご当地マスコットキャラクターなど普段目にしない色とりどりのデザインマンホールを嬉しそうにのぞく姿は今でも鮮明に覚えています。

**■三つの機会に**

改めて、当時の下水道展を振り返ると、三つの貴重な機会を得ました。

一つ目は、開催地やその周辺地域の人たちに下水道事業や当局の事業をPRできる絶好の機会を得たことでした。名古屋市が出展したブースでは、「浸水からまちをまもる」をテーマにVRによる豪雨体験のほか、浸水した水の力で扉が簡単に開かない状態や浸水した道の歩きにくさなどを疑似体験していただきました。また、名古屋市を浸水から守る施設を題材としたトリックアートの撮影スポットを設置するなど、普段あまり接する機会の少ない下水道事業について、楽しく学んでいただけるように工夫しました。

さらに、日本下水道協会が名古屋駅のコンコースで下水道展のPRを実施するのに併せて、当局の下水道事業等もPRしました。

二つ目は、筆者を含め下水道に携わる当局職員が、最新の下水道事業の現状を知り、さまざまな関係者と交流できる機会を得たことでした。企業ブースを見学した職員にとって、実際の現場で活躍する製品を生で見たり、最新の技術に触れたりすることは貴重な経験となりました。また、同時開催の下水道研究発表会では「人材育成」をテーマにした特別講演やパネルディスカッションが開催され、特にパネルディスカッションでは当局の若手職員が参加し、他都市や民間企業の若手職員と下水道業界の人材育成や技術継承について意見を交わすなど、普段の仕事では経験できない体験をさせていただきました。そのほか、下水道場やGJ（下水道女子）といった多くの自治体職員が参加する併催企画や研修などにも当局職員が積極的に参加することができました。

三つ目は、下水道事業の未来を担う子どもや大学生といった次の世代の人に下水道を伝える機会を得たことでした。パブリックゾーンは、スタージ企画も含め全体が子ども向けの内容となっており、その他にも1DAYインターンシップなど学生向けの行事を開催するなど、下水道業界の未来を担う若い人たちに、下水道業界を知っていただく絶好の機会となりました。今の若手職員の中には、この下水道展が下水道業界の仕事を目指すきっかけになった人もいるのではないでしょうか。

**■産官学の連携を**

人口減少、自然災害、環境問題など下水道事業が取り組まなければならない課題はさまざまです。当局が令和2年3月に策定した経営プラン「名古屋市上下水道経営プラン2028」でも、SDGsの理念を踏まえた取組みやまちづくりへの貢献を進めていくことにしています。

また、新型コロナウイルス感染拡大による影響で、今後の社会情勢はさらに不透明になりました。だからこそ、今、下水道業界において産官学が連携してこれらを乗り越えるきっかけづくりが求められており、来年度の下水道展への期待はますます高まっています。下水道業界のみらいが変わる第一歩としての盛大な開催となられるよう祈念しております。

「未来への挑戦」をテーマに発信

大雨からまちを守る下水道を学ぶ

## 横浜市

**■下水道展を終えて**

開港160周年の節目を迎える開港の地である横浜において、平成から新たな元号に変わった記念すべき年に、下水道界最大のイベント「下水道展'19横浜」が開催され、無事全てのイベントや催事を終えることができ、横浜市下水道関係者一同、大きな達成感を感じています。

令和という新たな時代の幕開けにふさわしい「下水道展」となるよう、横浜市下水道関係者をはじめ、民間企業の皆さま、国や地方自治体、NPO団体、教育機関など下水道事業に携わる多くの方々とともに下水道界を盛り上げるべく、下水道展会場のパシフィコ横浜を中心として周辺の「みなとみらい21地区」においても、「多様な主体と連携」しながらさまざまな取組みを展開しました。

下水道展を通じて、多様な主体と連携し多くのイベントや企画を行えたことは、横浜市下水道関係者にとって、大変有益な経験だったと思っています。

昨年の下水道展から1年が過ぎようとしていますが、その時に連携した方々とのつながりや経験が、業務の幅を広げ、明るく一体感のある職場環境づくりにも大きく貢献していると実感しています。

**■職員研修の場として**

下水道展の開催都市として下水道展期間中にさまざまな企画やイベントを行うために、下水道関係部署が一丸となり取り組んでまいりました。課の垣根を越えて協力し合い、通常業務では経験できないイベント等の準備を通じ、職員間の交流が一層深まったことや一人ひとりが満足感を得ることができたことは大変意義深いものでした。

また、併せて実施された「下水道研究発表会」では、さまざまな分野の最新の研究成果が発表され、その数の多さに驚くとともに、改めて下水道関係者の皆さまの日々の努力に感服するばかりです。

開催都市としても過去最多の32編を投稿し、分かりやすく人に伝えるための資料づくりや口頭発表練習を積み重ねたこの貴重な経験は、職員の人材育成にも大きく寄与したと感じています。

**■交流促進の場**

下水道展は国内における下水道界の最大のイベントです。同時に、産学官の関係者が一同に会し、最先端の技術紹介や各種イベントの開催を通じて「下水道の魅力」や「技術力」を国内外に強力に発信する、まさに下水道界の「熱い想い」と「結束力」を体感できる絶好の機会であると感じます。

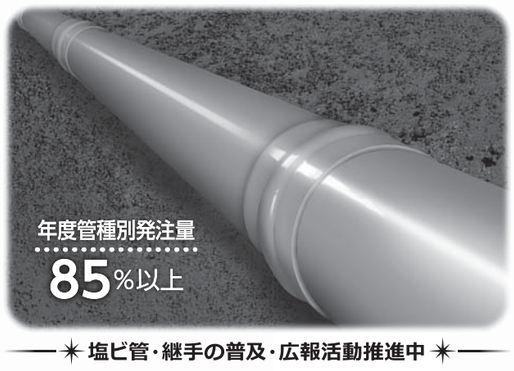
この下水道展の開催は、国内のみならず海外の関係者に対しても、日本の優れた下水道技術の発信に大きく寄与するだけでなく、下水道界の交流を一層促進し、新たな知見の発掘や交流による新技術の誕生など、下水道界の新しいイノベーションを生み出す可能性の高い大変貴重な場であると認識しています。

**■来年度の大阪開催へ**

現在、コロナ禍により日本国のみならず世界的にも大変厳しい状況ではありますが、「下水道展'21大阪」を通じて、下水道関係者のさらなる相互理解の促進と発展はもちろん、多くの市民や将来の下水道界を担う若い世代の方々に「下水道の魅力」と「優れた技術力」を大いに発信し、関係者の「熱い想い」と「結束力」を肌で感じてもらえ、下水道界が少しでも明るく元気になれるような展示会となることを期待しています。

横浜市下水道関係者一同、開催に向けてこれから尽力される関係者の皆さまに対しまして、敬意を表するとともに、盛会を心より祈念しております。

下水道管には抜群の実績と信頼の塩ビ管を！

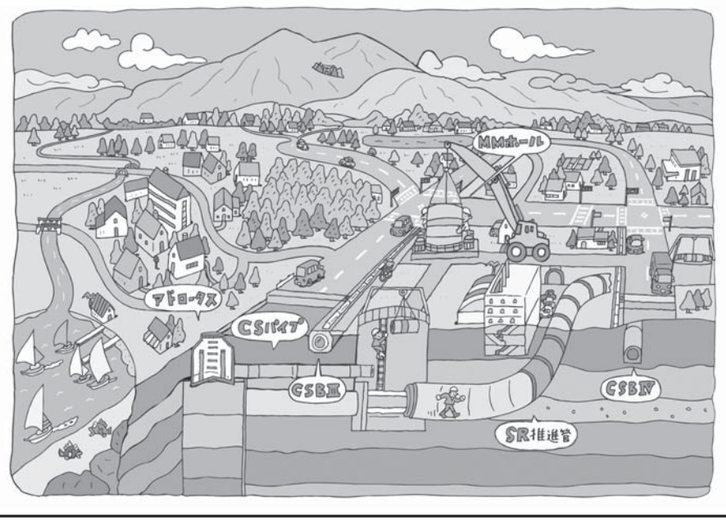



1. 取扱いが容易で確実に「施工」できます。
2. 材料コストだけでなく、トータルコストで「経済的」です。
3. 伸縮可とう性を有する継手を使用することで「耐震性能」も十分です。
4. 実使用品を評価し、「耐用年数50年以上」を確認しています。

塩ビ管・継手の普及・広報活動推進中

塩化ビニル管・継手協会　〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26東部ビル TEL.03-3470-2251 FAX.03-3470-4407 URL https://www.ppfa.gr.jp

Hi-NAC（ヒューナック）の製品はあなたの街の環境整備を支えます。




アドホール
鉄筋コンクリート製組立マンホール
CSパイプ
可とう性ヒューム管・可とう性推進管
大変位CSパイプ
MMホール・MMホールS
立坑兼用マンホール
SR推進管
曲線推進工法用推進管
SR-JD管
JSWAS A-2登録　高水密推進管
CSB・高圧CSB
遠心成形高強度パイプカルバート

中川ヒューム管工業株式会社
〒300-0051　茨城県土浦市真鍋1-16-11（延増第三ビル8F）
TEL.(029)821-3611　FAX.(029)821-3620